

## 不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動の展開

教育学部技術室

技術職員 西本 彰文

### はじめに

現在、全国的に見ると不登校児童生徒の数は、少子化の影響もあるが4年連続して減少<sup>1)</sup>し、全児童生徒に占める割合も低下するなど、行政の取り組みは一定の成果を見せていると言えよう。しかし、熊本県における不登校児童生徒の出現率はさほど変化していない。さらに、不登校の要因・背景は複合化かつ多様化しており、一層の取り組みの工夫が求められている。これらの事象の発生と継続に共通する原因の一つに、自己に対する自信の喪失があると言われている<sup>2)</sup>。そのため、不登校児童生徒に対して、ものづくり教育により、自己効力感を高め、ストレスに対処していく力(コーピングスキル)を育成することで、社会復帰の可能性を探る意義は大きい。

### ものづくり教育による不登校支援

筆者らは既報に於いて「ものづくり体験活動は不登校児童生徒に完成したときの喜びや感動を体験させることができ、教育的効果が期待できる。」と述べた<sup>3)</sup>。また、内閣府人間力戦略研究会は、ものづくり体験などを通して「社会でよりよく生きるために不可欠な知識等を学習内容に含める」ことも必要であると述べるとともに、不登校児童生徒への支援策として、フリー・スクール等の民間施設と積極的な連携を図っていくことが望ましいと述べている<sup>4)</sup>。ここでは、「民間施設」となっているが、地域における大学、特に教員養成系大学・学部期待される役割は大きく、更なる連携の推進が必要であろう。熊本大学においては、平成14年度からユアフレンド事業、平成17・18年度に採択された教員養成 GP「不登校の改善・解決に資する教育力の養成」や平成15年度よりおこなっている本活動と積極的な不登校支援を行ってきた。

### 本年度の取り組み

本年度は以下の取り組みを行った。特に、既報<sup>5)</sup>において述べた、「適応指導教室におけるものづくり教材開発の視点」を考慮した「ものづくり教育による不登校支援プログラム」の構築を行った。

#### 1. ものづくり教育による不登校支援活動

本年度に実施した活動の概要を、表1に示す。本年度は、1年を通じたプログラムの開発を行った。開発したプログラムは系統性や、適応指導教室における指導の視点、児童生徒の興味関心等を考慮し、表2に示すような年間計画を作成した。これを基に、熊本市適応指導教室「フレンドリー」の児童生徒を対象に、ものづくり体験活動を行った。活動場所は、熊本

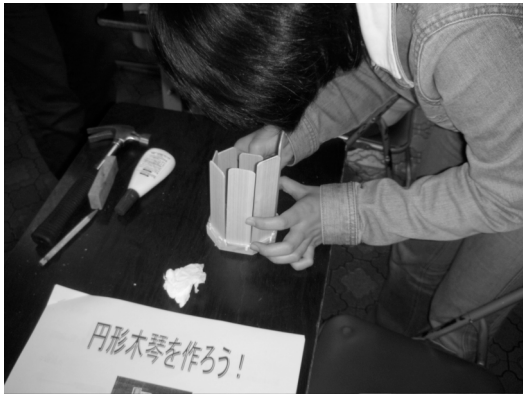
県伝統工芸館である。図は本活動の様子である。また、本年度は同一教材を使って他地区の適応指導教室においても実施した。これは、さらなる教材の改良を行うと共に、適応指導教室において、指導員がものづくり活動を主体的に行うことのために必要な要素を調査するためである。

表1 本年度に行ったものづくり体験活動一覧

実施日	実施場所	実施内容	その他
4月20日	熊本市適応指導教室フレンドリー	竹の箸	
5月18日	熊本市適応指導教室フレンドリー	竹とんぼ	
6月19日	菊池市菊池教室	円形木琴	兼 GP 試行授業
6月21日	熊本市適応指導教室フレンドリー	円形木琴	兼 GP 試行授業
7月7日	山鹿オアシスクラブ	円形木琴	兼 GP 試行授業
9月21日	熊本市適応指導教室フレンドリー	焼き杉プレート	
10月19日	熊本市適応指導教室フレンドリー	スパイスラック	
11月10日	大矢野中学校	円形木琴	
11月10日	本渡適応指導教室かわせみ	円形木琴	
11月16日	熊本適応指導教室フレンドリー	ねずみロボット	兼 GP 試行授業
11月17日	水俣市適応指導教室	ねずみロボット	
11月28日	山鹿オアシスクラブ	ねずみロボット	兼 GP 試行授業
11月29日	菊池市菊池教室	ねずみロボット	兼 GP 試行授業
12月21日	熊本適応指導教室フレンドリー	ゲルマニウムラジオ	
1月18日	熊本適応指導教室フレンドリー	紙漉(ケナフの葉書)	
2月15日	熊本適応指導教室フレンドリー	木の棚	卒業製作 グループ製作
3月8日	熊本適応指導教室フレンドリー		

表2 ものづくり活動年間計画

実施月	教材	備考
4月	竹の箸	刃物の取り扱いに慣れる。
5月	円形木琴	木材の特性に触れる
6月	けなふーりん	金属加工を含む。夏に向けての風鈴
7月	紙漉による葉書	環境教育的な視点を含む
9月	ペットボトルトロフィー	ホットカッターやホットボンドの使用
10月	焼き杉のプレート	バーナー処理による木材の質感の変化
11月	スパイスラック	本格的な木材加工
12月	イルミネーション付きクリスマスツリー	クリスマスに向けて
1月	ねずみロボット	はんだごての使用
2月	プランター(グループ製作)	卒業製作としての位置づけ。グループで比較的大きな作品の製作
3月		



(a)円形木琴の製作風景



(b)実際の教授風景



(c)紙漉の様子



(d)竹とんぼ製作の様子



(e)ホットボンドを使用して装飾している様子



(f)完成したスパイスラック

図 ものづくり体験活動の様子

## 2. 大学院生および大学生に対する教育活動

以下に示すのは、大学院生及び大学生に対して行った教育活動である。これらは、不登校児童生徒へのものづくり体験活動を行うに当たっての技術的、及び指導的な内容を含んでいる。さらに、適応指導教室でも使えるものづくり教材のデータベースの構築を行った。

- ・大学院開講科目技術科教育特論2コマ(円形木琴及び, ねずみロボットの製作・改良)
- ・月一回の木工講座の開講(教員採用試験2次対策を兼ねる)
- ・ものづくり活動用教材 DB の構築(CMS を利用し, Web ベースで構築)

## おわりに

本活動に参加する学生・院生は, 不登校児童生徒と協同し, 様々なものづくり体験活動を通して, 子どもたちと触れ合い, 発達障害や, 様々な課題を持った子どもに対する理解を深めることが出来た. 本学に於いて実施されているユアフレンド活動は子どもと大学生の1対1で行う活動であるが, 本活動は, 現在は, 技術科の一部の学生に限られているが, 大学生・院生と児童生徒の集団で協同した形での学びが期待できる. これは本活動のユニークな点であり, また, 教師を目指す学生・院生への実践的指導力の育成に資すると言える. さらに, 社会や行政, 大学が双方向で知的, 人的, 物的資源を提供・享受し, それぞれが三位一体のパワーアップを図るという地域連携事業(人材育成等)の目的に合致し, 究極的には人間力の育成に資する. これからも, このような活動を通して, 教員養成系大学・学部は, 地域の人材養成の核としてのプレゼンスを示していかなければならないと考える.

今後の課題としては, 本事業をユアフレンドに組み込むことで, 更なる効果が期待されるため, ユアフレンド活動との連携が必要である. また, ものづくり体験活動は, 継続して行うことで, 自己効力感の高揚に効果がある<sup>6)</sup>が, 適応指導教室の指導員は, 教材不足を感じており, 継続的なものづくり体験活動は難しい状況にある. このような適応指導教室に, どのような教材を提供すればいいか今後検討していきたい.

## 参考文献

- 1) 文部科学省:平成 18 年度生徒指導上の諸問題の現状について, 2006
- 2) 小林正幸:事例に学ぶ不登校の子への援助の実際, 金子書房, 2005
- 3) 西本・田口:不登校児童生徒を対象としたものづくり体験活動用教材の開発, 産業技術教育学会九州支部論文集 第13集, 2005
- 4) 内閣府人間力戦略研究会:人間力戦略研究会報告書:若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高めるー信頼と連携の社会システムー, 平成 15 年 4 月
- 5) 西本・田口・村上:不登校児童・生徒を対象としたものづくり体験活動の展開ー達成感、充実感を重視したものづくり教材の開発ー, 第 18 回産業技術教育学会九州支部大会講演要旨集, 2005
- 6) 田口・西本・村上:ものづくり教育による不登校児童生徒の教育支援プログラムの開発(2), 第 19 回産業技術教育学会九州支部大会講演要旨集, 2006